

## 福井県衛生環境研究センター研究員活動報告 概要

発表演題名	散発下痢症患者由来および市販鶏肉由来 <i>Salmonella</i> Infantis の分子疫学解析
発表学会名	第39回北陸公衆衛生学会
発表者名	永田暁洋, 山崎史子, 石畝史, 大村勝彦 (細菌・ウイルス研究グループ)
発表日時	平成23年11月14日
発表内容	<p>[目的]2007年から2010年に分離された、鶏肉由来 <i>S. Infantis</i> と患者由来 <i>S. Infantis</i> を比較し、関連性について考察した。</p> <p>[方法]鶏肉からの <i>S. Infantis</i> の分離は、BPW RV, TT MLCB, クロモアガースアルモネラにより実施し、血清型別を行った。薬剤感受性試験は12剤について実施し、パルスフィールド・ゲル電気泳動 (PFGE) は、<i>Xba</i> を用いて実施した。</p> <p>[結果および考察]</p> <p>鶏肉由来 <i>S. Infantis</i> は分離126株中67株 (53.2%) で、耐性薬剤数は平均3.7剤、主な耐性パターンはTC, SM, Suであった。薬剤別耐性率は、NAが11.1%およびABPCが9.5%であった。患者由来サルモネラ151株中、<i>S. Infantis</i> は24株で、12薬剤感受性株が最も多かったが、うちTC(I)が14株あった。ABPC耐性率およびSM耐性率は各4.2%であった。</p> <p><i>Xba</i> 処理によるPFGEパターンは、鶏肉由来株と患者由来株で異なるクラスターとなったが、各株のバンドパターンは3バンド異なる程度で、クラスター間の類似度も約86%であった。</p> <p>[まとめ]</p> <p>福井県内の鶏肉および患者から分離された <i>S. Infantis</i> は、薬剤感受性および遺伝子型が異なっており、鶏肉から人への直接の伝播による流行は確認できなかった。しかし、鶏肉由来 <i>S. Infantis</i> はNA耐性、CTX低感受性および多剤耐性など公衆衛生上の問題となる特徴を有しており、今後も人からの分離状況に注視すべきと思われた。</p>